資料 4.1 大連日本人学校　機器使用授業実践例 2

指導者　梅垣　美里

学年	小学部　4 年	教科	算数
単元名	小数のかけ算とわり算を考えよう		
活用する ICT	Ding talk ,iPad,電子黒板,デジタル教科書,パワーポイント		

本時の目標

〇小数×整数の計算を dL や 0.1L をもとに考え、説明することができる。

本時の展開

過程	学習活動	指導の工夫
導入	1　今までの学習をふり返り、色々な数を入れて演算決定をする。	・デジタル教科書を画面共有し、□に当てはまる数を変化させ、立式していく。
展開	2　本時のめあての把握 式を立てて、計算の仕方を説明しよう。 3　挿絵を見て、課題を捉える。 4　0.3× 6 の計算の仕方を考え説明する。 5　整数×整数の計算の仕方を基にして、小数×整数の計算の仕方を考える。	・パワーポイントに切り替え、板書をとっていく。 ・デジタル教科書で問題を提示し、演算決定のキーワードとなる言葉に線をき、立式をさせる。 ・数直線を提示し、低位の児童も考えが持てるように支援する。
終末	6　本時の学習をふり返り、次時の見通しをもつ。	・次時の問題にふれ、学習の見通しをもたせる。

成果と課題

・デジタル教科書を使うことで、視覚支援が充実した。低位の児童への手立てにつながった。
・アニメーションがあることで、児童が数量関係や立式のイメージが持ちやすい。
・デジタル教科書（算数）が、ネットワークを使用して開く必要があるため、Ding talk との相性、教室や学校のネットワーク状況によって、動作状況が左右される。時には、デジタル教科書を画面共有すると Ding talk が落ちてしまい授業が中断されることがあった。
・オンライン授業においては、板書に残す工夫が必要である。今回はデジタル教科書とパワーポイントを併用して、実践した。デジタル教科書の強みを生かしながらも、黒板とは違い、パワーポイントのスライドに書き込む方法を選択したため、文字の量やサイズを考える必要があった。スライド一枚に本時の板書をすべて残すことは厳しく、何枚かのスライドに分れてしまったので、今後も工夫が必要である。

通常時とくらべて、どれだけ平常時に近づいた授業実践ができたか

・授業の流れに関しては、デジタル教科書を画面共有し、児童に提示し視覚支援を行うことで、オンライン授業でも平常時とあまり変わらない教師主導の授業実践はできると感じた。
・考えを練り合い、話し合いをするなど児童主体の授業実践には課題がある。工夫が必要で、ネット環境やアプリの条件にも左右されてしまう現状がある。
・子どもの思考や教師の指導の手助けする意味で、デジタル教科書は有効である。